

ることを明確にすることでありませぬ。しかしながら、これらの諸問題は、その一つ一つが独立したものでなく、互に関連をもっており、またわが国幼児教育制度のあり方なり、更には他の私立学校に対する施策とも関連をもっております。と同時にわれわれ私立幼稚園自体が画一的なものでなく、幅広い層をもつていてという特殊性からも、非常に複雑な面があり、解決の困難さがあります。したがってわれわれ自身も、これに対する理解と、そのおかれてゐる位置とについての認識を深め、それぞれの場において問題の解決に努力することが必要であることは勿論であります。それが同時に、全国の私立幼稚園が緊密なる連携を保ちつつ、更に強力なる各種の対策、運動を一致団結のもとに推進して行かなければなりません。」

一、幼児教育理念の確立と幼児教育制度の再検討

この問題は池田首相の「人づくり懇談会」で幼児対策がとりあげられると同時に厚生大臣談、文部大臣談などが報道され、新聞報道のみを読むといふような錯誤を一般社会に与えているようであります。日私幼では昭和三十四年以来特別委員会においてこの問題を早くもとりあげ検討し、既に第一次、第二次草案を発表して、日私幼としての見解の一部を発表しているのでありますが、もし政府が、真に幼児教育問題を検討する心構えであるな

らば、文部、厚生などの官僚的な張り争いの的でなく、また政治的な一時の思いつきの発言でなく、参議院文教委員会が「政府は、幼児の教育が人間形成の最も重要な基礎となることにかんがみ、閣議の事項について深く検討を加えてその改善を図り、幼稚園教育の振興のため速かに適切な措置を講ずべきである」と決議して、その第一にとりあげている「幼児教育に関し、保育所との関連において根本施策を確立すること」の趣旨、精神の実現をはかるための機関を早急に、そして正式に発足させ、これにわれわれ幼稚園関係者をも加えて、世界公教育会議が各国文部省に示した「就学前教育についての勧告」の趣旨にそつた検討をわが国なりに実現すべきです。われわれはそれによつて真に日本国幼児の幸福のための教育理念と国公私幼保を総括した制度の実現を将来期したのであります。その一つの手がかりとして、私的ではあるが文部省のきも入りで発足した幼稚園教育振興協議会にもこのことを私幼側としては強く力説していきたいと思つております。

二、教育費等の不平等の是正

現在幼児の通う施設が国立か公立か私立かによつて幼児の平等である権利が護られ、認められていないのであります。即ち、国立の幼児には公費が支出されていますが、私立の幼児には公費が殆んど出されておらず、私立の幼児の父兄は、国立の幼児の教育費を税で負担しながらなお且つ自分のこどもの教

育費は自分で授業料その他の形で直接負担するという、二重負担であります。

また教職員は、その勤務する学校が国立か公立か私立かによつて「全体の身仕者」であるとの教育基本法に明定された身分が尊重され、待遇の適正が期せられていないのであります。即ち国立学校の教職員には公費が支出されていますが、私立の学校の教職員のためには、殆んど公費が支出されていないのであります。

こうした同じ国民、同じ教職員でありながら、その通う学校、勤務する学校が私立であるがため、不平等な取り扱いや甚だ差のある現実を是正していきたいものであります。

三、教職員の資質向上を徹底させる

今年度は教育要領の改善される年でもありますので、これを契機として現職教育の充実を一層盛にし、各園での研究、地方団体の計画や実施する研修会、或いは班別研究会、また全国九地区に亘る教育研修会、或いは全国教研大会等を一連の有機的つながりにおいて実施し、個人研究、機関研究等を通じて向上を図る必要があります。

四、全国私立幼稚園PTA連合会の結成

私立幼稚園振興について設置者、園長、教職員六十余万の保護者と共々に手をつなぐ課題を解決するために結成をします。

第十四日本私立幼稚園教育研究全国大会の概要

日時 七月二十七日、二十八日

会場 早稲田大学

主催 早学研修福祉会 実施 日私幼、東私幼

幼 幼

一、開会式

この開会式にはかしくも皇太子殿下の御光臨を仰ぎ、内閣総理大臣、文部大臣、全国知事会々長を初めとし、各界の幼稚園教育に深いご理解をいただく各界の名士を来賓に迎え、また、島津貴子様も来賓として特に御来場を賜わり、全国私幼教職員約七千五百名と、全国私幼の保護者代表千五百名の参加を得て海軍自衛隊の奏楽に始まり、厳肅に三十分間早稲田大学記念館において挙行された。東私幼理事長の開式の辞、日私幼理事長の挨拶につづいて正面に御座席の皇太子殿下より誠に私幼人にとってありがたき左記のおことばを賜わった。

おことば

今日ここに日頃幼稚園教育に従事しておられる全国のみなさんにおあいすることができましたことを心からうれしく思います。わが国の幼稚園教育が今日の普及を見るに至ったことは私立幼稚園に負うところが多く、関係のみなさんの熱心な努力に敬意を表したいと思えます。幼児期の教育は人間形成の基底となる最も大切なものです。

どうか私立幼稚園のみなさんが、この機会にその使命と責任の重大さを自覚され、

一層の工夫研究を重ね相携えて、わが国幼稚園教育の向上充実のために努力されるように切に希望します。

続いて池田首相の祝辞（内閣官房副長官）
灘尾新文大臣の祝辞、全国都道府県知事会々長（知事会事務局長）の祝辞などあつて、幼稚園讃歌、日私幼副理事長の閉式の辞で幕を閉じた。なおこの情況はNHKテレビ、ニュースで全国ネットで放送され、新聞社、民間テレビニュースなどにも取りあげられ報道された。

二、全国私立幼稚園PTA連合会結成式

開式の辞と経過報告について議事に入り、議長に愛知県私幼PTA協議会々長の橋本氏（県会議長）と九州大分県PTA山口会長を選出して次の項が決議された。

- 1 会則審議（原案決定）
- 2 役員選出 会長に船田中氏（栃木県PTA連合会顧問、衆議院議員）副会長六名と常任委員及び委員が決定。
- 3 宣言審議 決定 朗読された。

宣言文

わたくしたち全国の私立幼稚園四千七百余校と、その幼稚園で教育を受けている六十余万の幼児の家庭とは、幼稚園教育において欠くことのできない幼稚園と家庭との緊密なる協力により、それぞれ幼稚園教育において、その特性と自主性をじゅうぶんに発揮しながら、幼稚園教育の目的の達成に努力をしております。

思いまするに教育の目的は、人格の完成をめざして、心身ともに健全な国民を育成することであり、なかでも幼稚園教育の使命は、人格形成の最も重要な時期である幼児期の保育にあたり、その心身の発達を助長するところにあるのでありまして、幼稚園教育のもつ意義とその公共性は、誠に大きいものであります。しかしながら幼稚園教育はわたくしたち幼稚園と家庭との努力ばかりではなく、公の機関及び社会一般の理解と協力とによって、行政上その他の措置にまたなければ達成されない幾多の問題があるのであります。

このときにあたりまして、わたくしたちは、個々の力を結集して全国組織をつくり、幼児の最善の利益と幸福を増進させるために必要な諸問題を研究、協議して、世論をおこし、その実現に努力することを誓うものであります。

右宣言します。

議事は終了し、続いて船田会長挨拶、祝辞として参議院文教委員長、北島教真氏より衆参両院議員を代表して私幼振興は極めて重要であることが述べられ、今度あらたに公募した母の会の歌「愛の花輪」が合唱団に合せて全員で高らかに愛唱、閉会の辞で結んだ。

三、分科会

分科会は二十七日午後と二十八日午前に割当てられ、第一会場と本館の第二会場とに分れ二十の分科を以て研究討議が行なわれた。

第一分科会 幼幼教育は社会の期待に應えて
(教育理論) いるか。

助言 岡田正章氏、多田鉄雄氏
特別講師 山下俊郎氏、奥田真丈氏

第二分科会 幼稚園教育要領の改訂に望む
(教育理論) ことは何か。

助言 小川正通氏、日名子太郎氏
第三分科会 教育計画は地域的にどう生か
(教育計画) されているか。

助言 莊司雅子氏、植松治子氏
第四分科会 三才児保育の指導はどうある
(三才児保育) べきか。

助言 平井信義氏、高橋貞氏
第五分科会 保育の中で行なっている評価
(指導要録) 基準の反省点。

助言 大西憲明氏、黒田成子氏
第六分科会 「体育的遊び」の指導はどの
(健康) ようにすればよいか。

助言 岡本卓夫氏、加藤孝吾氏
第七分科会 望ましい社会生活の態度や習
(社会) 慣を身につける指導の方法は。

助言 辰見敏夫氏、大熊米子氏
第八分科会 幼稚園教育における行事をど
(行事) のようにとり上げたらいいか。

助言 竹田俊雄氏、内山憲尚氏
第九分科会 幼児の科学の芽ばえを高める
(自然) にはどのようにしたらよいか。

助言 栗山重氏、山内昭氏
第十分科会 幼児の話し合う力を伸ばすには
(言語) どのように指導したらよいか。

助言 村石昭三氏、海卓子氏
第十一分科会 幼稚園における音楽教育は
(音楽リズム) 今後どうあるべきか。

助言 酒田富治氏、鹿野京子氏
第十二分科会 幼稚園におけるリズム教育は
(音楽リズム) 今後どうあるべきか。

助言 安藤寿美江氏、本多鉄磨氏
第十三分科会 幼稚園教育における造型活動
(絵画製作) の正しい指導と評価は如何。

助言 湯川尚文氏、長友武子氏
第十四分科会 発達段階に即応した「製作」
(絵画製作) の指導は如何にあるべきか。

助言 手塚又四郎氏、藤田復生氏
第十五分科会 幼児の視聴覚における教材の
選択と活用はどのように。

助言 西本脩氏、高橋良和氏、赤松幹氏
第十六分科会 私幼の経営管理はどうあるべ
(経営管理) きか。

助言 多川静志氏、松井鏡太郎氏
第十七分科会 保育室を中心とした園舎の改
(施設、設備) 善と活用の仕方について。

助言 中島修氏、日下あこ氏
第十八分科会 私幼の立場から小学校との連
(幼小連絡) 絡はいかに行なうとよいか。

助言 宮下正義氏、小島忠治氏
第十九分科会 地域社会における私幼教育の
(両親教育) 位置づけ、両親教育。

助言 品川不二郎氏、高森豊氏
第二十分科会 交通安全教育のあり方。
(安全教育)

助言 横内教随氏、警視庁警部
どの会場も満員であったことと、意見発表
者の意見も本年は全部一括資料として全参加
者に配布したため、人員の移動などもなく、
静かに熱心に討議された。

四、分科会報告(二日目午後)
主として外部より依頼した講師が一人ずつ
代表して壇上に揃い、僅か三分ではあったが
概要報告があった。

五、閉会式及び勤続教員表彰式
開会式同様分科会報告会に引続いて行なわ
れた。閉式の辞(金子副理事長)に続いて日
私幼友松研究部委員長より大会宣言文の朗読
があり、拍手を以て採択、日私幼理事長の挨拶、
開催地代表東私幼理事長の挨拶があり、
勤務表彰者七十三名の表彰が代表により贈ら
れた。表彰者代表として四十二年の長きに亘
り幼稚園教育に没頭された大阪の杉本園長より
謝辞と決意があり、昨年開催地代表愛知県
私幼大河内氏に感謝状が贈呈され、参加者代
表兵庫の岩下氏より東私幼に謝辞が述べられ、
来年度開催地代表北海道私幼水沼会長より
挨拶、幼稚園讃歌合唱、日私幼、東私幼の
万才、閉式の辞に続いて螢の光奏楽により静
かに大会の幕を閉じた。

六、観光
遠くは会津磐梯、日光、箱根、富士二湖、
伊豆大島など、十方面に分れてそれぞれの方
面に楽しんで夢路へと向かった。

(日本私立幼稚園連合会理事長)